

# 複数集落による野生獣被害対策の体制づくり

湖東農業普及指導センター

## 【普及活動のねらい・対象】

彦根市鳥居本東内町と佐和山西内町の2集落は、市北部でも比較的獣害の少ない地域であるものの、山沿いのほ場では、イノシシによる農作物被害や畦畔の破壊などが問題になっていました。10年ほど前からはサルによる食害も発生し、近年では集落内でも被害が目立ってきました。

東内町では獣害対策委員会を設置し獣害対策に取り組んでいましたが、西内町では獣害対策組織は無く、隣接した2集落で連携した対策は出来ていませんでした。

そこで、サル害について対策を進めるとともに、両集落で獣害について話し合う場を持ち、広域の獣害対策組織で対策を進めるよう活動を行いました。

## 【普及活動の内容】

まず集落住民を対象とした獣害対策研修会を行い、獣害の現状と対策に対する意識統一を図りました。そのうえでサル害に対応する侵入防止柵「おじろ用心棒」の展示ほを設置し、被害対策の啓発を行いました。西内町では獣害対策組織の設置を働きかけ、その後両集落で獣害対策に当たる体制づくりと、両集落で取組める事業計画の策定を支援しました。

## 【普及活動の成果】

展示ほでは、湖東地域の広域獣害対策検討会議の研修会を開催し、他集落にも情報共有を行いました。

西内町では新たに獣害対策委員会が設置され、2集落合わせた活動が始まっています。両集落では獣害対策組織の複数年計画が検討され、来年度は侵入防止柵の設置、侵入防止柵の効果確認、緩衝帯の維持管理、林縁部の竹林の処理、獣害に強い作物の現地見学を予定しています。



写真 おじろ用心棒の扉を開閉する耕作者

### ◎対象者の意見

今まで野菜を栽培してもサルに取られていたが、おじろ用心棒展示ほでは取られる事がないので作った甲斐がある。集落でも期待している（西内町農業組合長）。